

姫路城石垣の魅力 —見どころ20選—

姫路城石垣は、築城工事の時期によって大きく3期に分類できます。

I期…羽柴秀吉時代(天正8~9年 1580~1581)

II期…池田輝政時代(慶長6~14年 1601~1609)

III期…本多忠政時代(元和4年頃 1618)

◇写真①~⑨はI~III期の順番で、写真⑩~⑫は転用材の、⑬~⑯は刻印の、それぞれおまな箇所を例挙しました。⑰~⑳はその他の見どころです。

※は「昭和の大修理」の際、石垣修理が実施された箇所です。

山本博利「姫路城石垣研究の前提的作業(1)」(『城郭研究室年報』Vol.5, 1995)をもとに作成



④への渡櫓裏(I期) -非公開-

鬼門(丑寅の方角)除けの隅落して、石垣の傾斜はゆるやか



③瓦葺跡裏(I期) -非公開-

姫山原生林内に残る古式石垣



②菱の門東方(I期)

羽柴時代を代表する石垣で、「布積み崩し」の典型



⑩上山里曲輪下段(I期)

チャートの野面石を多用した古式石垣



⑤三国堀北辺(I期)※

羽柴時代の空堀痕跡で、昭和の大修理の際に発掘された



⑰備前丸(II期)

通称「扇の勾配」、隅角部の算木積みがほぼ完成している



⑥天守丸(II期)

池田時代を代表する打込接(はぎ)の石垣



⑱りの二波櫓下(I・II期)

隅角部稜線を境に、右手がI期、左手がII期石垣



⑥'天守台石垣東南隅部(II期)

粗割石の乱積み(一部落し積み)



⑱備前丸西面(II期~)

張出した低石垣が江戸初期の補強石垣



⑦帯郭櫓~帯櫓(II期)※

北側の帯櫓石垣は城内最高石垣(23.32m)



⑨西ノ丸タの渡櫓(III期)※

2段石垣の下段に大石の積み込み



⑧西ノ丸ワの櫓下(III期)

本多時代の西ノ丸改修時の普請



⑩乾小天守下北面(II期)

石臼の転用材(通称「姥ヶ石」)



⑪りの一渡櫓

I・II期石垣に積み込まれた転用材(古墳の石棺)を展示



⑫下山里曲輪

各種転用材を保管(五輪塔・宝篋印塔・多層塔他) 主にI期石垣に積み込まれていたもの



⑬桐の三門(現・大手門)北

刻印「容(よき)」、総社門で使用されていた石を近代に移転、再利用



⑮化粧櫓下東面(III期)※

刻印「五芒星」、陰陽道の印に酷似



⑭西ノ丸又の櫓(III期)※

刻印「奈良村」、築城当時の播磨で同名の村は見当たらない



⑯めの門東(りの二波櫓入口階段)(II期)

石階に刻印2種「心」・「目」

- I期
- II期
- III期

